

## 新しい医療における伝統食材の可能性

東海大学医学部 抗加齢ドック教授  
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授  
久保 明

2013年12月17日の *Annals of Internal Medicine* 誌においてビタミン、ミネラルサプリメントと心血管障害・がんの発症予防に関するシステマティックレビューが掲載された。本レビューでは10年以上マルチビタミンを服用している男性において、がん発症がわずかに減少するものの心血管障害発症にはほとんど効果がなかったとしている。サプリメントなどの服用量や服用する組み合わせだけでなく、対象者が健常者でありハイリスク者ではない点などから、この研究をもってビタミン、ミネラルサプリメントが無効であると断定することは出来ない。しかし、食材という形ではなく健康的といわれる成分を中心に摂取することの限界を示している。

一方、魚や果物、オリーブ油、ナッツなどに富んだ地中海食によって心血管障害発症が約30%減少したとする *The New England Journal of Medicine* の2013年2月の報告では“食材”の持つ可能性が示唆されている。

新しい医療は診断における遺伝子・Omicsの活用や治療面での再生医学活用が中心となっているが、これら新しいノウハウを駆使しながら“伝統食材”の持つ可能性を明らかにしていくことが重要と考えられている。

今回の講演では臨床医学を基本とした新しい医学において、伝統食材を用いた研究がどのように位置づけられているのかを明らかにしたい。